

【科目名】対象と理解		
【期 別】前期（4～8月）	【区 分】必修	【種 別】講義
【単位・コマ数】2単位・15コマ	【時間数】22.5	
【主任教員】○金子 みどり（5）		○は成績評価者
【分担教員】○長倉 寿子（5） ○岡野 裕（5）		○は成績評価者
【授業のねらい】 園芸療法による支援対象者の症状・病理・心理を理解する		
【担当教員】	【授業予定】	
金子 みどり 寮： 7/6（木）1-5限 通： 7/29（土）1-5限	①支援対象者のこころの健康と病理について ～疾患による心理や疾患がもたらす生活状況による心理～ ・高齢者 ・身体障がい者 ・精神障がい者 ・知的障がい者 ・発達障がい ②アセスメントツール（検査表）について	
長倉 寿子 寮・通合同 8/5（土）1-5限	① 障害とリハビリテーション ・リハビリテーションの理念を理解し、対象を述べることができる ・リハビリテーションの諸段階やライフステージにおける障害特性について理解する ② 生活機能評価 ・ICFの視点による評価・アセスメントについて理解する ・生活モデルによる評価・アプローチについて解する ③ 生活機能向上に対する実践 ・活動・参加に対する視点と目標設定について理解する	
岡野 裕 寮： 4/16（日）1-5限 通： 9/2（土）1-5限	① ICFの基本理念と構成について知る。 ② 模擬症例を通してICFを用いた対象者理解の手順を体験し、生活機能と背景因子のつながりから園芸療法士の支援について遂行できるようになる。	
【参考図書】		
長倉 寿子：	・「「PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論」（診断と治療者、2011年、3,600円） ・「事例で学ぶ生活行為向上マネジメント」（医歯薬出版、2015年、4,000円） ・「日常生活から高次脳機能障害を理解する認知関連行動アセスメント」（三輪書店、2016年、2,800円）	
岡野 裕：	・「ICFの理解と活用」（上田 敏 著、発行きょうされん・発売元 萌文社、720円） ・「ICF 国際生活機能分類」（世界保健機構(WHO)、中央法規、2002年、3,500円）	
【予習課題】		
長倉 寿子：	地域リハビリテーションや地域包括ケアシステムの構築についての事前学習をお願いします。	
岡野 裕：	ICFの活用と理解、ICF 国際生活機能分類のP53まで目を通しておいってください。	
【成績評価の方法】		
金子 みどり：	出席状況、レポート内容	
長倉 寿子：	授業での取り組み、事後課題提出で判断する。	
岡野 裕：	授業への参加状況、事後課題の提出状況で判断する。 事後の課題については、講義で説明します。	
【受講生への希望】		
長倉 寿子：	実習における課題があれば、整理しておいてください。	
岡野 裕：	講義の当日は、模擬事例を通して学びを深めていきますので、積極的に取り組んでください。	